

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「今の時代に生きるキリスト者の責任とは」

—戦後 75 年の夏を迎えて—

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

度重なる大雨によって被災された方々、感染症の不安の中にある方々、逝去された方々の魂の平安をお祈りいたします。

今年が敗戦後75年にあたる年です。本来なら過去の戦争の過ちを意識し、様々な学びや祈りが全国各地で行なわれる予定でしたが、延期や中止・規模の縮小等を余儀なくされています。

先日、ある依頼を受けて1980年代の総会記録を読み直す機会がありました。1986年に「日本聖公会組織成立100周年」を迎えようとしている頃のことです。「神の宣教」に参加するキリスト者としてイエスさまの宣教の姿勢を模範とし、小さくされた人々、弱くされた人々の声に寄り添うこと、正義と平和や社会的な課題を教会の課題として大切にしていこうという機運が高まっていた頃だと思えます。部落差別問題や教科書問題、靖国問題、外国人登録法や指紋捺捺問題への関心が高まり、日本聖公会の総会で「部落差別問題委員会」や「靖国神社問題特別委員会」、「正義と平和委員会」等が立てられ、現行祈祷書(1990年)への改正議論もある中で、祈祷書から差別語を削除し、「天皇のため」・「皇室のため」の祈りが削除される動きがありました。「日本を象徴する者のために祈るのは当然ではないか、政治的な考えの違いを縛ることにならないか」という意見がある一方で、「天皇の名のためにかつての戦争で軍人として命を失わざるを得なかった方々、天皇の軍隊によって侵略を受けて家族を奪われ、名前を奪われ、尊厳を奪われたアジア諸国の人々の痛みを覚える時、その祈りは日本聖公会の祈りとしては相応しくないのではないか」「天皇を尊い人の頂点として、清い人と穢れた人という差別構造が作られてきたのではないかと、熱い議論が交わされ、88年の第39(定期)総会で協賛し、90年の第40(定期)総会で同意を得て削除が決議されました。また、それに先立つ83年の第38(定期)総会では、「天皇のため」の祈りを削除する議案討議の中で、総会代議員による部落差別発言が起きました(各教会にお送りした『日本聖公会第38(定期)総会における部落差別発言』総括報告書に詳細が記載されていますので、ぜひご一読ください)。その後の総会や

□会議・プログラム等予定

(2020年7月25日以降)

※現時点での予定です。
延期や中止の可能性もあります。

7月

- 28日(火) 常議員会〔管区事務所・Web会議〕
- 30日(木) ～31日(金) 正義と平和・ジェンダープロジェクト作業・会議〔管区事務所・Web会議〕

8月

- 18日(火) 宣教協議会準備会〔管区事務所・Web会議〕
- 20日(木) 教役者給与調整資金タスクフォース〔管区事務所・Web会議〕
- 25日(火) 人権問題担当者会〔Web会議〕
- 28日(金) 女性の聖職位に関わる委員会〔Web会議〕

9月

- 2日(水) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔沖縄・Web会議〕
- 7日(月) 聖公会・ルーテル教会協議会〔管区事務所〕
- 8日(火) ～10日(金) 管区共通聖職試験〔各教区〕
- 17日(木) 第65(定期)総会第1回書記局会議〔管区事務所〕
- 18日(金) 年金委員会〔管区事務所〕

<関係諸団体会議・他>

- 8月18日(火) NCC 役員会〔早稲田〕
- 21日(金) 聖公会関係学校協議会〔Web会議〕
- 24日(月) ACT ジャパンフォーラム運営委員会〔Web会議〕
- 9月25日(金) 日本キリスト教連合会常任会議〔市ヶ谷〕
- 30日(水) NCC 委員長会議〔Web会議〕・役員会〔早稲田〕

★管区事務所夏期休業

8月11日(火)～17日(月)までの間、夏期休業いたします。よろしく願いいたします。緊急の場合は総主事まで。

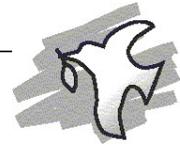
主教会、諸委員会を中心に、この課題が日本聖公会全体の課題であることを改めて認識し、私たちの中にある差別性と日本聖公会の中にある差別体質が明らかになった出来事として重く受け止められました。そして、管区と各教区に「人権問題担当者」を置き、総会や主教会での「人権の学び」、神学校新卒者を対象とした「新任人権研修会」や各教区の課題を学び合う「人権セミナー」が今日まで継続され、「人権活動を支える主日」の設置を総会で決議し続けてきました。

様々な思いや考えを持った方々が集う教会だから、教会が政治的なことに関わるべきではないという思いと、神さまの働きは教会の中だけではなく、社会全体を通して現わされているという「神の宣教」という考えとの相違は、なかなか乗り越えられない永年の悩みでもあります。しかし一方で、世界的な感染症禍の中、住民票のない外国籍の方々を支援の対象としない政策や、人種差別や特定の職業を差別する意識が存在すること

は、キリストの教えに逆行すること、悔い改めが必要なことではないでしょうか。人を殺めるための軍隊や軍事力の不保持、命や環境を破壊する核の不使用や不保持を願い主張することは、キリスト者の信仰の課題とはならないでしょうか。様々な考えがあるのだから触れないでおこう、総会や主教会が一定の主張に導くことは、おかしいのではないかと、ならば何故あの事には触れないのかという思いを抱く方もおられると思います。

しかし、今この時、私たちは何を求めて祈り、何を大切にしようと教会に集うのか、感染症禍で教会に集えない経験をしながら、その意味をもう一度考え直してみる夏を迎えているのではないのでしょうか。

5年前の戦後70年の際に主教会が作成した祈りを戦後75年用に文言を変えて掲載いたしますのでご活用ください。



戦後75年を覚えて

真理と平和の源である全能の神よ、アジア・太平洋戦争終結から75年を迎えたわたしたちは、すべての犠牲者の魂をあなたの憐れみの御手にゆだねて祈ります。

また今もなお痛みや苦しみの内にある人びとを覚え、主にある平安が与えられますようお祈りいたします。

そして、わたしたちが過去の歴史から目をそむけず、地上の平和を脅かし、あなたの似姿に創造された一人ひとりの命と尊厳を奪い去るあらゆる戦争と暴力に対して、目を開き、声を上げ、あなたの平和の器となることができますように、知恵と勇気をお与えください。

父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

□主事会議

第64(定期)総会期第10回 2020年7月13日(月)

<主な報告・協議>

- COVID-19の影響により主日礼拝休止にある中の総会が定めた主日信施の取り扱いについて、信施によって活動が支えられている活動が多くあることに鑑み、ふさわしい資金から例年並みに補充を行なう旨を確認し、常議員会に提案することとした。
- COVID-19の影響における各教区からの管区費分担金について、各教区への緊急調査の中間報告をもとに協議を行なった。未確定要素が多く、各教会の状況を把握しきれていない教区もある時期だと考えられるので、引き続き各教区への聞き取りを丁寧に行ないながら協議を重ねることとした。
- 教役者給与調整資金について、タスクフォース立ち上げが常議員会で承認され、近日中に第1回目の会合を行なうこととした。
- 総会議案や会場の変更(京都)などについて、総主事より報告を受けた。報告・議案の再提出は8月末日として各委員長・報告者に依頼済み。
- 総主事住宅屋根補修について、見積りを元に検討を行ない、合見積を取ることを条件に承認した。修繕額が大きいことから、常議員会にも承認を得ることとした。
- 台風19号の被害について、再度支援の必要

な教会・施設を各教区へ問い合わせ、横浜教区茂原昇天教会(約420万円の屋根等の被害)からの支援要請があった。台風19号被災支援から100万円の拠出を承認し、献金先の指定のない残額約360万円は緊急災害支援資金に繰り入れ、度重なる災害支援に充てることとした。

次回会議:2020年10月5日(月)

□各教区**神戸**

- 聖職按手式 2020年8月22日(土)10時半
日本聖公会 神戸教区 神戸聖ミカエル大聖堂
司式:主教 オーガスチン小林尚明
説教:司祭 ミカエル小南晃 司祭按手志願者:執事 バルナバ永野拓也

九州

- 長崎原爆記念礼拝(聖餐式) 8月9日(日)10時半
日本聖公会 長崎聖三一教会
テーマ:死の同心円から平和の同心円へ
司式:主教 武藤謙一(九州教区主教) 説教:主教 五十嵐正司(前九州教区主教)

沖縄

- 聖職按手式 2020年9月19日(土)11時
日本聖公会沖縄教区 主教座聖堂 三原聖ペテロ聖パウロ教会
司式:主教 ダビデ上原榮正 説教:司祭 ベネディクト高英敦 司祭按手志願者:執事 ヨシユア上原成和

《人事》**横浜**

司祭 サイモン 廬 チョルレ	2020年7月14日付	横浜クライスト・チャーチ牧師および横浜山手聖公会協働司祭の任を解く。
	2020年7月14日付	ミッション・トゥ・シーフェアラーズ横浜のチャプレンの認可を取り消す。(残存任期:2020年7月15日から2021年5月31日まで)
司祭 ダニエル竹内一也	2020年7月14日付	横浜クライスト・チャーチ協働の任を解く。
	2020年7月14日付	横浜クライスト・チャーチの管理牧師に任命する。

神戸

聖職候補生 ルカ宮田裕三	2020年6月20日	公会の執事に按手される。
--------------	------------	--------------

■管区人権問題担当者からのお知らせ

毎年秋に行なわれてきた「人権セミナー」は、今年は9/8～9/10に北海道での開催が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染防止に鑑みて、今年の開催を中止し、来年に改めて計画されることになりました。

また、5月に予定しておりました「新任人権研修会」は来年に延期させていただきます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

■今こそ、主日の《信施》の底力を!!

その昔、日曜学校に握って行った《50円玉》を回ってきた籠にいれる時のあの誇り高いドキドキ感。これこそが《信施》の底力だと思います。私

達の《信施の一部》は教区や管区を通して、年に7回の「総会によって定められた主日」の働きのために献げられ、その活動を支えています。例えば聖霊降臨後第6主日(今年は7月12日でした)は「海の主日」と定められ、その日の《信施》は苫小牧、横浜、神戸の各拠点で、長い航海で疲れた船員さん達やすべての船舶関係者の体と心を癒すボランティアの活動を支える「底力」となっています。コロナ禍の影響で、礼拝に集まることも困難を極めています。各教会へお届けしている「総会で定められた特定の主日」のご案内をご確認の上、皆様の「底力」もう一息!

どうぞ、よろしくお願いいたします。

(管区財政主事・鈴木裕子)

「沖縄の旅 Zoom プログラム」を終えて

—沖縄に心に向けた web 会議での集い—

正義と平和委員会・沖縄プロジェクト担当

司祭サムエル小林祐二

本年も「沖縄週間」を終え、各教会のお働きのうち祈りを共にできましたことを感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大により「沖縄週間／沖縄の旅」を中止としたことのお知らせでしたが、準備会ではこのまま何もできずにいてよいのかと協議し、皆さまの祈りの備えとなるよう、web会議システムを用いて沖縄の現在について紹介し、慰霊の日前夜の祈りをささげるプログラムを企画しました。日程は「旅」の最終日であり沖縄慰霊の日の前夜となる6月22日(月)19:30からおよそ1時間。インターネット環境のない方々にも電話や書面・メールで関わりが持てるよう準備し、また事後にこのようにプログラムの様子をご報告することで、情報格差を少しでも埋めることができると考えました。

プログラムの内容は「沖縄の今」「関連情報の紹介」「聖歌と祈り」の3部構成とし、第1部では本年実行できなかった「旅」の訪問先等を画像・動画で解説しながら共有しました。訪沖の都度

に撮ったものに加え、沖縄教区スタッフが撮影してくださった首里城の復興状況や平和祈念公園の様子、また場所の移動がないweb会議で少しでも距離感が表現できればと立体地図動画を加えました。第2部では関連情報として中部教区名古屋学生青年センター会報『こえ』第79号(沖縄特集)、また23日に沖縄教区北谷諸魂教会でささげられる「慰霊の日礼拝」の東京教区からのインターネット配信について紹介しました。第3部では聖歌423番「おきなわのいそに…」の奏楽付き動画と祈禱文を共有しながら進めました。

日本聖公会全教区からの信徒・教役者、また他教派教職者や海外の方々も含め、申し込みは80件近くにのびりました。連絡の不備や接続状況などにより実際の接続は75名ほどとなり、3名からのメッセージを紹介しました。想像を遙かに超える人数となり、受付や準備はパニック寸前でしたが、近年の「旅」の参加人数が減少しつつあるなかで、実際はこれだけ多くの方が沖縄に

心に向けておられることに気づかされました。

初めての経験で不手際や不十分な面が多々ありましたこと、この場をお借りしてお詫びいたします。

急速に広まるweb会議は新たな可能性を持っています。しかしどれだけうまく使いこなせたとしても、本年の旅で体感することを計画していたGamma（沖縄戦時に避難場所や施設となり多くの犠牲者が出た自然壕）の暗闇と日射しのコントラスト、沖縄料理の香りや味、米軍航空機の騒音…等、沖縄の現実全てを表現することは困難です。このプログラムが、今年のテーマで触れた「無関心」に対するちいさな気づきとなり、沖縄を訪ねる願い、またウイルス感染終息に向けたちいさな励ましとなれば幸いです。そして沖縄の歴史と現在を学ぶことを通して、わたしたちが平和の器とされますように。

沖縄の旅 Zoom プログラム参加者の声

「想像していた以上の喜びが!!」

「沖縄の旅Zoomプログラム」に参加させていただきました。これまで何度か沖縄を訪れる機会がありましたが、「沖縄週間／沖縄の旅」への参加は叶わず残念に思っていたところ、代替プログラムが企画されたことを教会からの案内で知りました。Zoomを自分で利用するのは初めてでしたが興味もあり、日程も参加しやすいと感じました。

参加をメールで申し込むと、接続練習の案内メールが届きました。プログラム前日に、練習用の環境で接続を確認できて少し安心しました。当日、改めて案内のメールが届き、プログラム開始の10分前頃に接続してみると、既に10名程度の方が参加しておられ、参加者の顔が画面に映し出されていました。「こんばんは! よろしくお願ひします」「〇〇さん! 久しぶり!」皆の声が飛び交い、続々と参加者の顔が増えていきました。

冒頭に沖縄教区よりご挨拶がありました。「日曜学校で子供たちに、6月23日は何の日?と聞いても答えられなかった。大人たちが伝え続けていないからだ。私たちは今、コロナ禍に対応し

続けることに疲れているが、命を守るために続けていかなくてはならない。それと同じで、伝え続けることは疲れるかもしれないが、伝え続けていかなくてはいけない。」というお話で、大人である自分の責任を感じる言葉でした。

プログラムの主な内容は、まず今年行なわれるはずだったツアーの訪問地を、地図や画像で追いながらたどっていく、というものでした。三原聖ペテロ聖パウロ教会、国際通り、おもしろまの写真に加え、首里城の最近の復興の様子を動画で見ることができました。南部では、Gammaや平和祈念公園、ひめゆり記念館など、さらに中部の普天間基地周辺や北部の辺野古の写真があり、目的地まで次々に飛びながら短い旅をしました。

続いて名古屋学生センターの機関紙の沖縄特集の紹介や、沖縄教区の慰霊の日礼拝の動画中継案内がありました。その後、聖歌423「沖縄の礎に」を皆で歌いました。動画で奏楽が流れ、我が家では家族で歌いました。参加者の声はお互いに聴こえない状態でしたが、画面からはそれぞれの場で歌っていらっしやる様子が見られました。沖縄週間の祈り、主の祈り、就寝前の祈り、祝祷と続きました。離れていても一緒に祈ることができる、神様のもとにつながっている、ということが強く感じられました。約1時間でプログラムは終了し、名残り惜しい気持ちで解散（会議室から退出）しました。参加者の皆様とゆっくり言葉を交わすことはできませんでしたが、顔を合わせて同じお祈りを共有させていただけたことは、想像していた以上の喜びでした。参加者の皆様、そして企画に携わられた方々に感謝申し上げます。

今回のプログラムは時間も限られ、沖縄での戦争、基地の問題などについてごく簡単にしか触れられていない物足りなさも感じましたが、慰霊の日をこれまでよりも自分にとって大事な日として迎えられました。実際に沖縄に行って、耳を傾けるチャンスが早く訪れますように、また沖縄についての学びを続け、自分にできることを探し行なうことができますように、と願っております。

(匿名希望)

新型コロナウイルス（COVID-19）に関連する 各教区の対応

北海道教区 礼拝（公禱）の休止なし

- ・教会での礼拝は主日・週日いずれも定時に行かない、誰でも参加可能
- ・礼拝に関して不安や恐れがある信徒は自宅で礼拝を守ってもよい

東北教区 礼拝（公禱）の再開

- ・主日礼拝等については、6/7より再開。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。

北関東教区 礼拝（公禱）の再開

- ・教区内各教会は、6/7より礼拝を再開。ただし地域社会や教会共同体の状況を考慮・協議し必要な策を講じる。

東京教区 礼拝（公禱）の順次再開

- ・感染予防等 11 項目を主教教書により通知し、7月以降、態勢の整った教会・礼拝堂から公禱を再開。
- ・再開日や公禱の設定（用いる礼拝式や時刻・回数・参加人数の限定などの検討や設定）は、それぞれの状況により異なる。また感染拡大との情報に伴い、状況により再開延期、再休止とする教会も見られる。
- ・聖職司式によるみことばの礼拝の臨時使用を教区主教により許可。
- ・教区教役者逝去者記念聖餐式は、8月より家族関係者に出席者を限って行なう。
- ・葬儀は十分な感染予防対策の上で実施。
- ・主教座聖堂 HP での礼拝映像配信、祈りの式文公開は少なくとも8月半ばまで継続する。

横浜教区 礼拝（公禱）の公開を再開

- ・6月7日を目途に、人数制限をした上で主日礼拝を再開する。
- ・5月23日より平日の礼拝と教会委員会の教会での開催を再開する。
- ・止むを得ない事情がない限り、しばらくの間、

在籍外の教会への礼拝出席は控える。教区を越えての礼拝出席も同様とする。

中部教区 礼拝（公禱）の再開

- ・6/1以降の主日及び週日の礼拝再開時期は『礼拝再開に関するガイドライン』に基づき各教会で判断。

京都教区 礼拝（公禱）の休止なし

- ・各教会で判断。主日礼拝はほぼすべての教会で再開。

大阪教区 礼拝（公禱）の再開

- ・6/7より段階的に礼拝を再開。引き続き主日礼拝（聖餐式・みことばの礼拝）のみ。

神戸教区 礼拝（公禱）の再開

- ・教区内の教会・伝道所は6月よりほぼ全教会が聖餐式を再開したが、神戸市内の数教会は聖餐式前部のみを行なっている。

九州教区 礼拝（公禱）の再開

- ・無理に主日礼拝に来ることをお勧めしない（体調の悪い方・公共の交通機関で教会に来られる方など）。

沖縄教区 礼拝（公禱）の再開

- ・各教会で判断。主日礼拝はほぼすべての教会で再開。
- ・南静園聖ミカエル教会は園の対策が緩和されるまで礼拝を休止。

管区事務所

- ・6/1（月）より通常勤務（平日の月～金曜日 9:30-17:30）。今後の状況によっては時間短縮などの可能性も有。

(7月17日現在)



青年活動のための日

2020年8月2日

「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。

(コリントの信徒への手紙二 4章6節)



■ BSA セミナーを再延期

BSAセミナー「来日宣教師の働きと教区編成」は、当初5月23日(土)に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため、10月3日(土)に延期しました。しかし、しばらく収まっていた東京での感染が6月後半から再び増えはじめ、7月に入ってから連日100人を超す勢いとなりました。講師の松平信久先生ともご相談した結果、このままでは開催の目処は立たないと判断し、「再延期」することといたしました。今後の予定は感染拡大の状況を見極めながら検討し、あらためてご案内をさせていただきます。(セミナー担当理事・吉松英美)

管区事務所編集
発行を早めて10月に配本します!

聖公会手帳 2021

- ・「祈りのページ」を大幅に増補しました!
- ・日記と年鑑を兼ねた便利性を徹底!
- ・教会暦・日課表の最新資料を収録!
- ・紙質を軽量化して使いやすさを追求!

○大型判 2,200円 / 通常判 1,200円(税込)
申し込みは聖公書店(TEL 04-2900-2771)、
またはお近くの書店まで。

世界の聖公会の動向

☆各管区の総会が COVID-19 による制限のためオンラインへ移行、もしくは延期となる
 ☆アレクサンドリアが 41 番目の管区として発足 ほか

管区渉外主事
 司祭 ポール・トルハースト

○各管区の総会が COVID-19 による制限のためオンラインへ移行、もしくは延期となる

新型コロナウイルスの拡散を防ぐための制限が継続し、いつどのようにしてロックダウンが解除されるのか不透明な状況が続いているため、多くの管区総会が延期またはオンライン化されている。

アオテアロア・ニュージーランド、ポリネシア聖公会の2年に一度の総会が5月9日から14日までネルソンで開催される予定だったが、緊急の案件のみに絞り、7月25日の1日限りのバーチャルな総会に変更された。今年の後半に、より長期の会議が予定されている。

英国教会の総会は、英国議会によって設立された立法機関でもある。7月にヨークで開催される集会後に行なわれる予定だった任期5年の選挙を延期するため、法律の改正が必要となったが、代わりに、エリザベス女王による評議会での命令を受けて、現職のメンバーがさらに1年間継続することになった。

7月の会議は1日限りのバーチャルな集まりに変更されることになった。質疑応答、議長演説、COVID-19への教会の対応に関するプレゼンテーションが予定されている。

○アレクサンドリアが 41 番目の管区として発足

北アフリカとアフリカの角にあるかつてのエジプト教区は、アングリカン・コミュニオン

区への移行を完了した。教区からエルサレム・中東聖公会に対する分離要求を受けて、1月にヨルダンで開催された首座主教会議で移行の承認が与えられていた。

「アレクサンドリア聖公会」は、アングリカン・コミュニオンの公式発表によると、エジプト、アルジェリア、チュニジア、リビア、チャド、モーリタニア、エリトリア、エチオピア、ジブチ、ソマリアの10か国に広がる管区となる。初期キリスト教会の主要拠点があったエジプト北部の都市にちなんで名付けられた。

アングリカン・コミュニオン総主事、ジョサイア・イドウ＝フェアロン大主教は、次のコメントと共に管区設立を発表した。「近年、私たちは北アフリカとアフリカの角をもつエジプト教区が大きく成長しているのを目の当たりにしています。特に顕著な地はエチオピアのガンベラ地域ですが、ここだけではありません。アングリカン・コミュニオンの中でも最も大きく、多様性に富んだ教区の一つであり、また、最も急速に成長している地域の一つでもありました。」

エルサレム・中東聖公会の首座主教でありキプロス・ペルシア湾教区の主教であるマイケル・ルイス大主教は、新しいアレクサンドリア管区の兄弟姉妹に心からの祈りと祝意を表した。

ACC（全聖公会中央協議会）議長・香港聖公会首座主教のポール・クオン大主教は、新管区の区域を「豊かさ、多様な歴史的文明、文化、宗教、社会政治に満ちた土地」と表現し、次のように述べた。

「名称の由来となったアレクサンドリアは、世界の七不思議の一つに挙げられる灯台がある有名な古代文明のゆりかごであり、名高い図書館や学問性の高い土地でもあります。今日のアングリカン・コミュニオンに対しても、同様に意義のある役割を期待することができるでしょう。」

○ホサム・ナウム首席司祭がエルサレムの補佐主教に按手される

エルサレムの聖ジョージ大聖堂の首席司祭で

あったホサム・ナウム師は、6月14日(日)、聖ジョージ大聖堂で執り行なわれた、必要最低限のシンプルな礼拝により、エルサレム教区の補佐主教として按手された。ホサム補佐主教は、来年のスヘイル・ダワニ大主教の退任に伴い、エルサレムの大主教に就任する予定である。

エルサレムは、世界中全てのキリスト教徒と聖公会信徒の心の中で特別な存在であるため、式への出席を希望する声は多い。しかし、COVID-19による渡航規制により海外からの訪問者は最小限に抑えられ、礼拝はインターネット上でライブ中継されることとなった。

スヘイル大主教は説教の中で、ホサム・ナウム師の新しい称号に込められた二つの単語の意

味について次のとおり語った。「第一に、『主教』の肩書は、今日からホサム首席司祭がこの教区だけでなく、世界に広がるアングリカン・コミュニケーションの中で主教の指導者たちの仲間入りをすることを意味します。そして、第二の意味も同様に重要です。『補佐』という語は、やがてホサム主教がエルサレムの大主教として私を引き継ぐことを意味しています。それと同時に、彼はこの聖なる都市に存在する各教会の長の一人にもなるのです。本日は、ここエルサレムにあるキリストに連なる一つの聖なる公会である使徒教会の中で、より大きなリーダーシップを発揮することへの第一歩になるのです。」



速報

ランベス会議が2022年に再延期されます

カンタベリー大主教は、2022年のイギリスの夏に向けて、ランベス会議の予定をさらに1年延長するという重要な決定をくださいました。

カンタベリー大主教は、現時点で特別な激励メッセージを配信しています。特にCOVID-19パンデミックの影響下において言えば、英国国教会に連なる教会やコミュニティを支援するという

司牧的役割を担っている世界中すべての主教と配偶者を激励しています。

ビデオの中で大主教はまた、延期された2022年のカンタベリーでの物理的な会議と並行し、バーチャルな他の会議などを通してイベントの前後に幅広いプログラムを展開し、配信することも発表しています。



Lambeth Conference Announcement
The Lambeth Conference reschedules to 2022

管 区 事 務 所
〒162-0805
東京都新宿区矢来町65番
電話 (03)5228-3171
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会
NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE
65, Yurai-cho, Shinjuku-ku
Tokyo 162-0805, Japan
Tel. 81-3-5228-3171
Fax. 81-3-5228-3175

2020年8月15日

主にある兄弟姉妹の皆様へ

日本聖公会 主教会

戦後75周年 8. 15平和メッセージ

キリストは、神の形でありながら、神と等しくあることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の形をとり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで、従順でした。

(フィリピの信徒への手紙 2:6-8、聖書協会共同訳)

主の平和が皆様と共にありますように。

今年は、1945年8月15日、日本が敗戦を認め、連合国軍に無条件降伏を行なってから75周年を迎えました。

1931年の満州事変に始まり、1945年まで続いた戦争は15年戦争と呼ばれ、双方で多くの犠牲者を出しました。その人々の命に贖われて、戦後日本は、平和を目指す国家と生まれ変わりました。その大きな表れが日本国憲法です。

憲法の前文には、日本国民は、恒久平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚すると述べ、その平和の実現のために第9条に於いて、日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求して、戦争を放棄することと、その目的を実現するために、陸海空軍、その他の戦力を保持しないと、謳っています。

日本国憲法第9条「戦争の放棄」は国際社会に大きな驚きを与えました。外交手段のひとつとしての戦争を放棄し、世界平和を願うと訴えたからです。「戦争の放棄」を憲法に謳った背景には、太平洋戦争に於いて、約2,000万人のアジア、太平洋地域の人々と約300万人の日本国民の血が流されたことがあります。多くの犠牲者の血によって、今の日本の平和が贖われていることを、私たちは決して忘れてはなりません。

しかし、日本は「戦力を保持しない」はずにもかかわらず「自衛隊」を組織し、また、自国防衛の名のもとに専守防衛以上の武器や戦力を保持しようとしています。その戦力を保持し増強するために、私たちの多くの税金が使われています。また、二度と戦争をさせないと、国家として誓いをしたにも関わらず、最近では憲法の文言を変えて、また、その解釈を変えて、再び戦争が出来る国家にしようとしています。

戦争は、いきなり起こるものではありません。戦争の原因は、多くあります。領土の拡大、資源の確保、あるいは争奪、政治的な圧迫、武力による威嚇などがあり、その他にも、差別、偏見、人種間・民族間の争い、貧困、搾取、支配と被支配など、私たちの日常生活の中にある様々な問題が、戦争の火種としていつもくすぶっています。

自由、平等、平和は誰もが願っているものです。しかし、それが実現できず、私たちがその内の何ひとつも得ることが出来ないのは、私たち人間の自国優先主義や自己中心の故ではないでしょうか。

私たちキリスト者の間でも、み言葉はいつも忘れられています。キリストは私たちに隣人を愛し、敵を愛し、人を赦すように教えられ、そのために自ら十字架に命を投げ出されました。しかし、私たちは、自分の目の梁を見ることなく、人のあらを見つけ、人を赦すことなく非難し、隣人を愛するのではなく妬み、羨みます。隣人よりも自分を優先し、身を低くするのではなく驕り高ぶり、他人から尊敬され、敬われたいと願っていることがとても多くあります。その私たち一人ひとりの思いと罪が膨らみ、それが多くの人の思いとなっていて、国家間の戦争や内乱、内戦を起こしているのではないのでしょうか。

キリストが自らを低くして十字架に架かり、犠牲となられたように生きることがキリスト者の生き方なら、そこには争いが無くなるはずです。奪うのではなく与え合い、憎むのではなく赦し合い、敵対するのではなく愛し合うなら、人と人との関係に和解がなされ、平和が生み出されるはずです。キリストのように従順に身を低くし謙遜に生きるなら、私たちは、平和を生み出す者となれるはずです。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によって3密を避けるようになり、私たちの生活に変化が出てきました。3密を避けるとは、互いに適度な距離を取り合って、良き関係を作ることであります。近すぎず、遠すぎず、対話を続け、お互いに必要なものを与え合う。それが争うことのない、良い関係なのではないのでしょうか。個人同士、社会と社会が、そして国家間でも、3密を避けた中での付き合い、平和を作り出すきっかけが隠されているはずです。

「わたしたちを平和の器にしてください」という祈りは、日本聖公会が戦後50周年を迎えた折に、宣教協議会を開いて以来、今までずっとささげ続けている祈りです。不安や恐れ、危険や困難、悲しみ、苦しみの中にいる人たちに心に向け、その人々と共に歩むということ、それを私たちは何よりも大切な宣教の課題に据えてきました。私たちの平和への歩み、たとえそれが小さなわざであっても、そこにこそ神の御国が実現していくと私たちは信じて、戦後75周年の今、勇気と希望を持って進みましょう。

教区報再録

北海道教区報「北海之光」第731号(2020.6.20)

主教室より 主教 ナタナエル 植松 誠

今年のイースターは紋別聖マリヤ教会に巡回。それ以降、札幌在住の私は主教巡回自粛を余儀なくされています。例年なら今頃は前期の主教巡回日程に従って、道北、道東、道南へと出かけているはず。私にとっては巡回で信徒の皆さんとお会いし、ともに聖餐に与り、交わりの時を持つ…。それは当たり前のことでした。この23年間、どれほどその巡回で私自身が強められ、祝福されたことか、今まさにそのことを思い巡らし、辛い思いでいます。身の置き場がない…という気持ちです。一つひとつの教会の信徒さんの皆さんのお顔を思い浮かべ、あの方はどうしておられるだろうか、あの方のご病気はどうなっただろうか、あの方の家族は…と、祈りの中で問うばかりです。札幌市内の教会でもご自宅での礼拝を捧げておられる方が多く、やはり思いは同じです。それぞれの教会の教役者たちは、いろんな工夫を凝らし、できるだけ、お一人おひとりとの交わりを絶やさないようにと、やはり思い巡らす日々でしょう。

人間の計画のなんと脆いことか、改めて思い知らされました。本来ならば、6月の初めに管区の総会も終わり、私は首座主教としての働きを終えているはずでした。その後のことを、私なりにいろんな夢を持って描いていました。退職までの1年10カ月、今までできなかったこと、例えば、巡回に合わせて病気の信徒の方々や、しばらくお顔を見ない方々を訪ねること、あまり関われなかった地方の幼稚園、保育園に出向いて行って先生方、子どもたちと過ごすこと…。これからは

そんなことをする時間も与えられる。そのような私のささやかな計画も覆される今回のコロナの波でした。

今、このような困難な状況下にあっても、そこに主のご計画があることを信じ、新たな歩みが始められるように心を奮い立たせて祈ります。

教会だより JUNE (全23教会から抄録)

▽新冠聖フランシス教会

新冠での最後の礼拝は4月12日の「復活日」でした。それから1カ月後の5月12日(火)、司祭は「みくにが来ますように」の小冊子を携えて幾人かの信徒のお宅を訪問し、祈りをして参りました。みなさま、お変わりなくお過ごしの様子に安堵いたしました。

6月に入ったならば、是非にもともに“賛美と感謝の祈りを献げたい”旨のご案内を差し上げたところでは。

▽網走聖ペテロ教会

暑さも時折覚えるようになりました。

司祭は週報その他の印刷物や教区の今後の方針のコピー等を訪問しながらお届けしています。

5月30日、佐藤智彦邸の棟上式に10名が集い、ここに住むご家族のため、家のため、工事のために祈り、棟札としての十字架、東西南北、四隅の柱、玄関等の祝福が行なわれました。

6月14日(日)の聖餐式・教会委員会をもって(対策を講じながら)通常通りのスタートとなりそうです。



日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。